

2019年12月30日

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ
株式会社三菱UFJ銀行

2020年3月期第3四半期決算（日本基準）における のれん一括償却に伴う特別損失の計上について

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（代表執行役社長 三毛 兼承^{みけ かねつぐ}、以下MUFG）は、子会社である株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 三毛 兼承^{みけ かねつぐ}）が実施する、インドネシア共和国（以下インドネシア）の大手商業銀行PT Bank Danamon Indonesia, Tbk.（以下バンクダナモン）株式の減損処理に伴い、2020年3月期第3四半期の連結決算（日本基準）において、のれんの一括償却（以下本償却）による特別損失を計上することといたしました。

1. 損失計上の内容

MUFGおよび三菱UFJ銀行は、東南アジアのビジネスプラットフォーム構築に向けて戦略出資等を通じて同地域の商業銀行業務を強化してまいりました。バンクダナモンへの戦略出資については、2017年12月より段階的に進め、2019年4月29日に公表しました通り、第三段階の追加出資¹⁾にてバンクダナモンをMUFGおよび三菱UFJ銀行の連結子会社といたしました。現在、三菱UFJ銀行が所有するバンクダナモンの普通株式の所有割合は94.1%です。

2019年12月30日時点のバンクダナモン株式の市場価格が取得原価と比較して50%以上下落したことに伴い、三菱UFJ銀行は当該株式の減損処理を行います。その結果、MUFGは連結決算において、「連結財務諸表における資本連結手続に関する実務指針」の規定に基づき、本償却を行うことといたしました。

2. 業績・業務に与える影響について

2020年3月期第3四半期決算（日本基準）において、本償却による「親会社株主に帰属する四半期純利益」への影響額は、2,074億円を見込んでおります。本償却は、2020年3月末におけるバンクダナモンの株価が回復した場合には、2020年3月期通期決算において戻入れを行います。が、株価が回復せず2020年3月期通期決算においても一括償却した場合は、その後戻入れは発生いたしません。

2020年3月期通期の業績目標「親会社株主に帰属する当期純利益」9,000億円²⁾（本件影響勘案前）につきましては、今後変更が生じた場合はお知らせいたします。

バンクダナモンは、インドネシア国内において広範かつ強固な事業基盤と高い収益性を有しており、三菱UFJ銀行のグローバルコマーシャルバンキング（以下GCB）事業戦略において極めて重要な役割を担っております。当該損失計上後も、MUFGのバンクダナモンを含めたGCB事業戦略に変更はありません。今後、バンクダナモンとのシナジーを一層追求し、インドネシアで事業を展開されるお客さまに対して総合的な金融サービスを提供するとともに、インドネシア経済の発展にも貢献してまいります。

^[1] 2019年4月29日発表のプレスリリースは以下リンクをご参照ください。

(ウェブサイトへのリンク) https://www.mufg.jp/dam/pressrelease/2019/pdf/news-20190429-001_ja.pdf

^[2] 2019年11月13日発表の決算ハイライトは以下リンクをご参照下さい。なお、MUFGは、銀行業、信託銀行業、証券業、クレジットカード・貸金業等の金融サービス業を展開しておりますが、これらの業務には、経済情勢、相場環境等に起因するさまざまな不確実性が存在するため、業績予想に代えて、親会社株主に帰属する当期純利益の目標値を公表しております。

(ウェブサイトへのリンク) https://www.mufg.jp/dam/ir/fs/2019/pdf/highlights1909_ja.pdf

MUFGによる将来予想に関する記述についての注意事項

本資料には将来予想に関する記述が含まれています。将来予想に関する記述には、「予定する」、「見込む」やその他類似する表現により将来の状況等を説明しております。実際の結果等は、将来予想に関する記述にて見込まれる予想とは大幅に異なる場合があります。MUFGは、法令により求められる場合を除き、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を負いません。したがって、本資料に含まれる将来に関する記述はあくまでも現時点でのものであり過度に依存いただくことのないようご注意ください。

以 上